

## ■工学域 電気電子系学類 情報工学課程

### ○カリキュラム・ポリシー

1. 大阪府立大学工学域のカリキュラム・ポリシーのもと、教育課程の編成を行う。
2. 工学の基礎に根ざした学問の系統性と順次性を尊重して、共通教育科目、専門基礎科目及び専門科目（学域共通科目、学類基盤科目、課程専門科目）により構成される整合性・一貫性を持つ体系化された教育課程を編成する。
3. 学生の電気電子系学類内の課程への所属は経過選択型とし、柔軟で自由度の高い進路選択を可能にする。
4. 共通教育科目の履修により、教養豊かな人間性と幅広い学修成果を修得させる。専門基礎科目の履修により、工学を学ぶために必要な自然科学全般についての基盤的知識を修得させる。専門科目の中でも、特に電気電子系学類全体で必要とされる科目を学類基盤科目に指定する。
5. 1年次では、学生の幅広い学修を保証し、豊かな教養を身に付けさせるため、共通教育科目を中心に配当する。同時に、4年間の学士課程教育の基礎を構築するため、専門基礎科目を適切に配当する。また、電気電子系学類で学ぶ学問全般を理解させるため、「電気電子系学類総論（必修）」を配当し、情報工学、電気電子システム工学、数理システム、電子物理工学の4課程全般について概論的な講義を行い、2年次以降に学習する専門科目と専門基礎科目との接続を円滑にするとともに課程配属先を決定するための判断材料を提供する。
6. 2年次では、初年次の共通教育科目と専門基礎科目を中心とする教育で得られた基礎的で幅広い学修成果を、3年次以降の専門科目履修に繋げることを目的として、専門基礎科目と各課程の基礎的な専門科目を中心に配当する。また電気電子系学類で学ぶ学問分野全般を俯瞰する視点を獲得し、3年次以降に学習する専門科目への接続を円滑にするため、2年次には入門的な課程専門科目を適切に配当する。これにより、情報・知能科学の基礎知識とその応用力を養う。さらに、2年次から3年次にかけて、「工学倫理（必修）」、「環境倫理（必修）」を配当し、技術者・研究者としての倫理観を涵養する。
7. 3年次以降では、課程専門科目を中心に配当し、講義・実験・実習・演習などを通して、情報・知能分野の専門知識を獲得し、それを問題発見、問題解決、モデル化・定式化に応用できる能力を育成する。
8. 4年次には卒業研究（6単位）を必修とし、情報工学における最先端の研究テーマを設定して学生の研究意欲を高め、系統的な研究指導により基礎的な研究能力を育成する。これにより、与えられた条件下での仕事の管理能力を獲得する。卒業研究履修には履修資格を設ける。
9. 情報工学課程の求める人材、教育目標、教育制度・教育方法、卒業要件、卒業後の進路を受験生や在学生にわかりやすい形で示し、卒業時に取得可能な資格や免許の受験資格を明示する。